

<主な政策課題についての私の考え方(要旨)>

(3) エネルギー政策の考え方

① 原発の新規立地は理解を得られず、原発依存度は低下していくのが現実。このため、全てのエネルギーの可能性を徹底的に掘り起こし、低廉かつ安定的な電力供給を確保するとともに、原子力に依存しなくても良い経済・社会構造の確立を目指す。

原発再稼働については規制委員会の専門的判断により決定。当面の最優先課題として、3年間再生可能エネルギーの最大限の導入、スマート・グリッドなど省エネの最大限の推進を図るとともに、シェールガス・メタンハイドレードの早期供給可能性を追求する。

② 太陽光、風力などの再生可能エネルギーを大胆に導入する際、その安定性確保のためには、特に北海道の送電網の拡充、大型蓄電地の開発・普及が不可欠。地熱、小水力は、規制緩和とモデル事業により加速。造船技術を活用した潮力、下水汚泥など活用のバイオマスにも期待。

③ その上で、判断の先送りは避けつつ、遅くとも10年以内には将来にわたって持続可能な「電源構成のベストミックス」を確立する。その判断に当たっては、規制委員会が安全だと判断する新たな技術的対応が可能か否かを見極めることを基本とする。

電力改革については、(i)地域間の競争、(ii)異業種からの事業参入の促進により、競争関係をつくる。発送電分離も本格的に検討する。